



33

特別
ル 3
3617
71



旅

鏡



林文房潤暉誌



そまのものが... 二光の... 旅... 鏡... 日... 師... 志... とい... くの... 文... の... も... とい... たり
は佛の靈がん... とい... たり
大神れ... あり... の... あり... とい... 東の
國... の... 霊場と... 稱... とい... と
日... 師... 志... とい... の... 文... の... も... とい... たり
... とい... たり... とい... たり... とい... たり
... の... 結... 持... と... とい... たり... とい... たり... とい... たり
... の... 名... 亦... 古... 伝... の... あり... とい... たり... とい... たり
... とい... たり... とい... たり... とい... たり... とい... たり

元弘二年乙

丑春三月

乾濟山人



晃山云

壯神聖

垂臨拜

享致誠

伴序

宜依斯

誌

元治乙丑季春

蘇菴題并書



日光道中續誌

目錄

一日本橋より日光河原道中記

日光河原道中記

一日本橋より日光河原道中記

三拾六里十丁

一日本橋より日光河原道中記

三拾九里二十丁

一日本橋より日光河原道中記

三拾九里二十丁

一日本橋より日光河原道中記

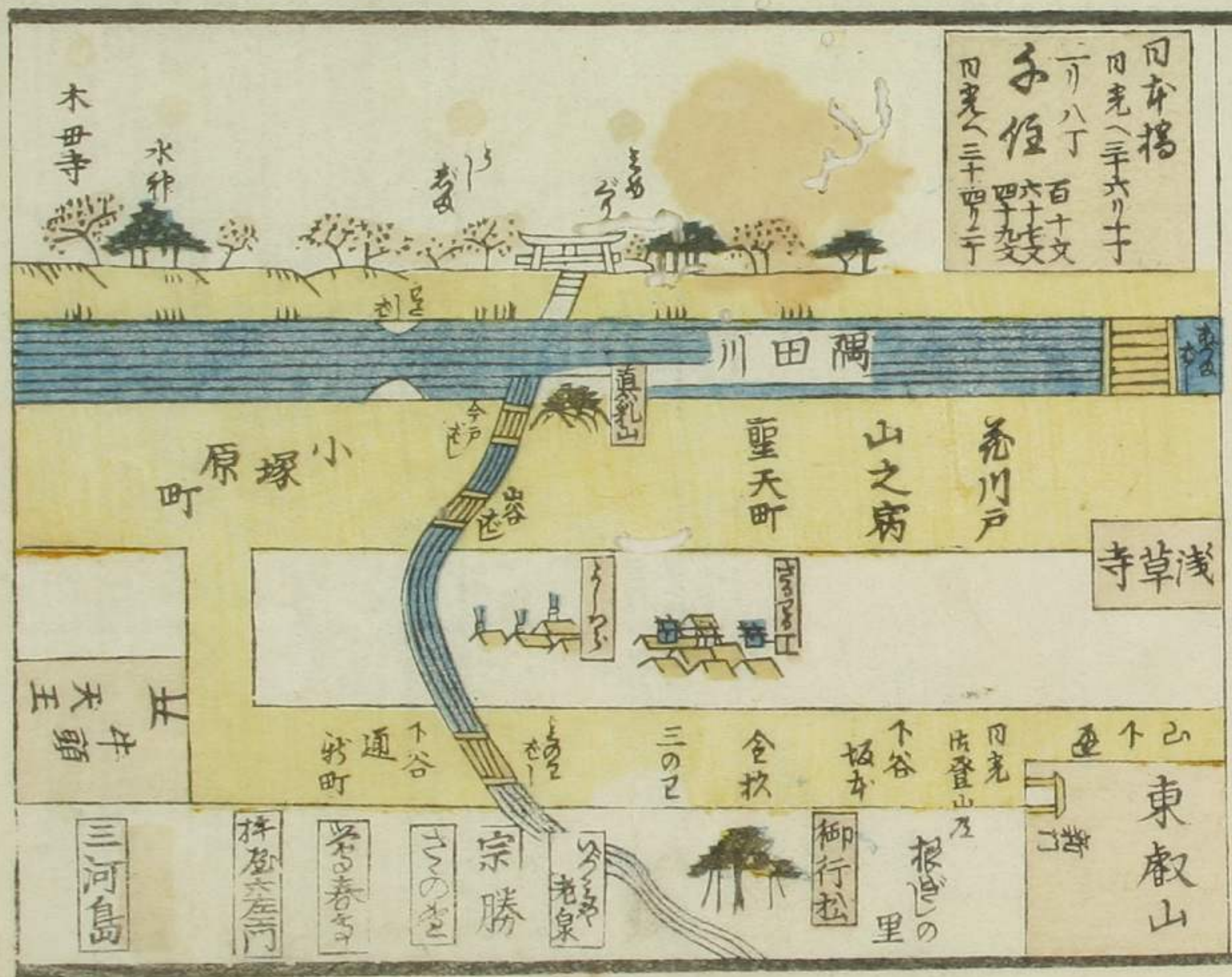
三拾九里二十丁

一日本橋より日光河原道中記

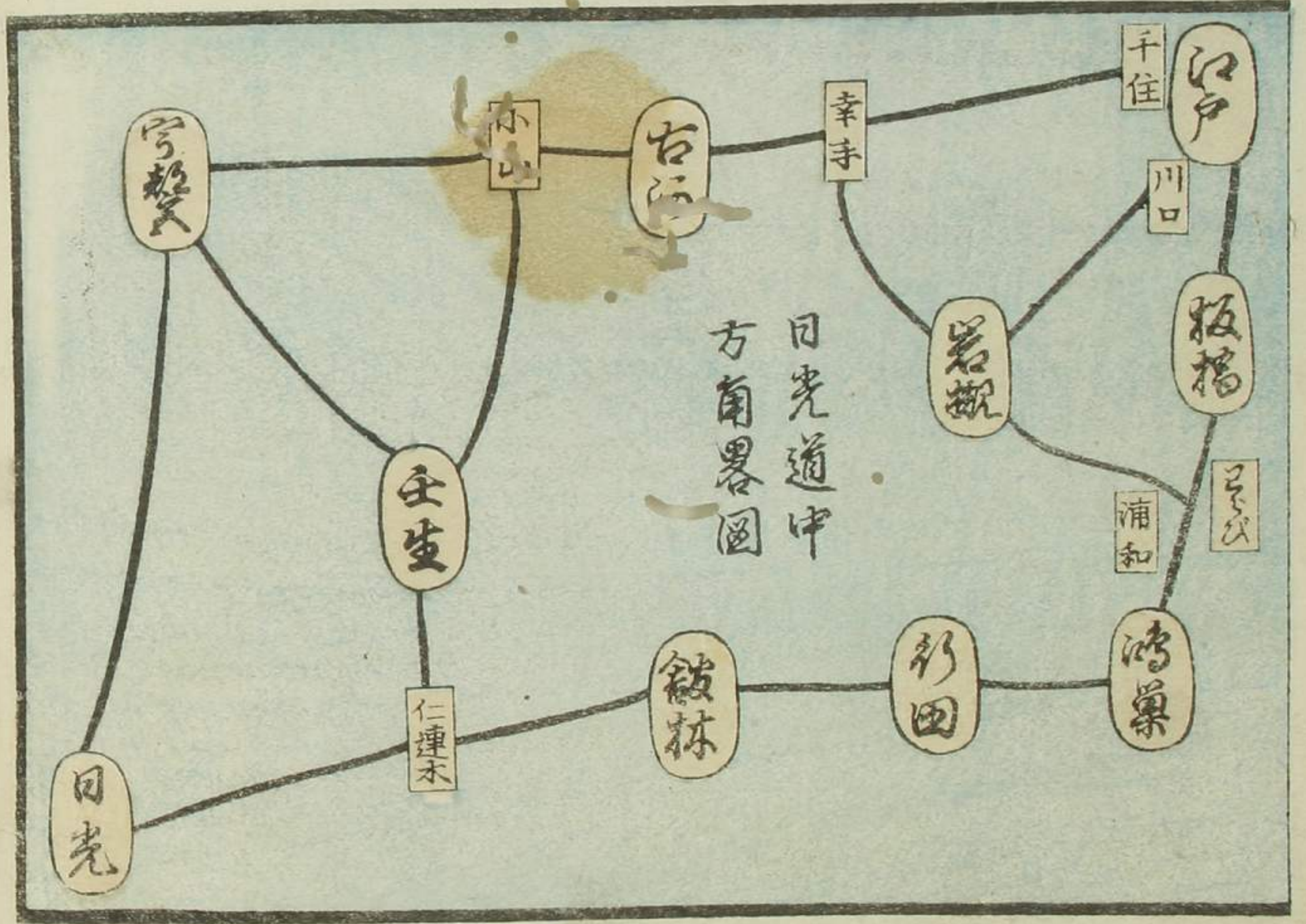
一日本橋より日光河原道中記

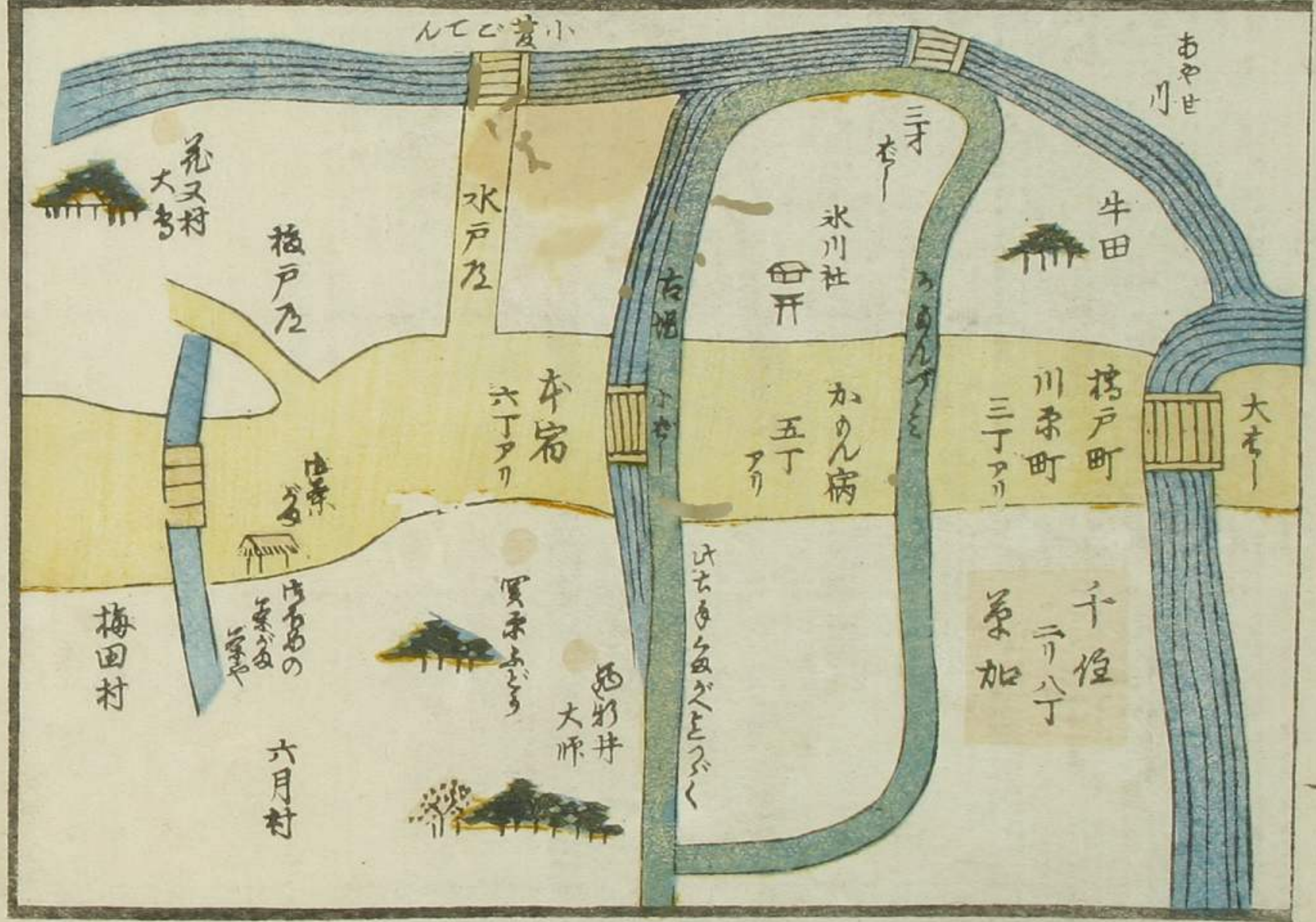
一日本橋より日光河原道中記

一日本橋より日光河原道中記



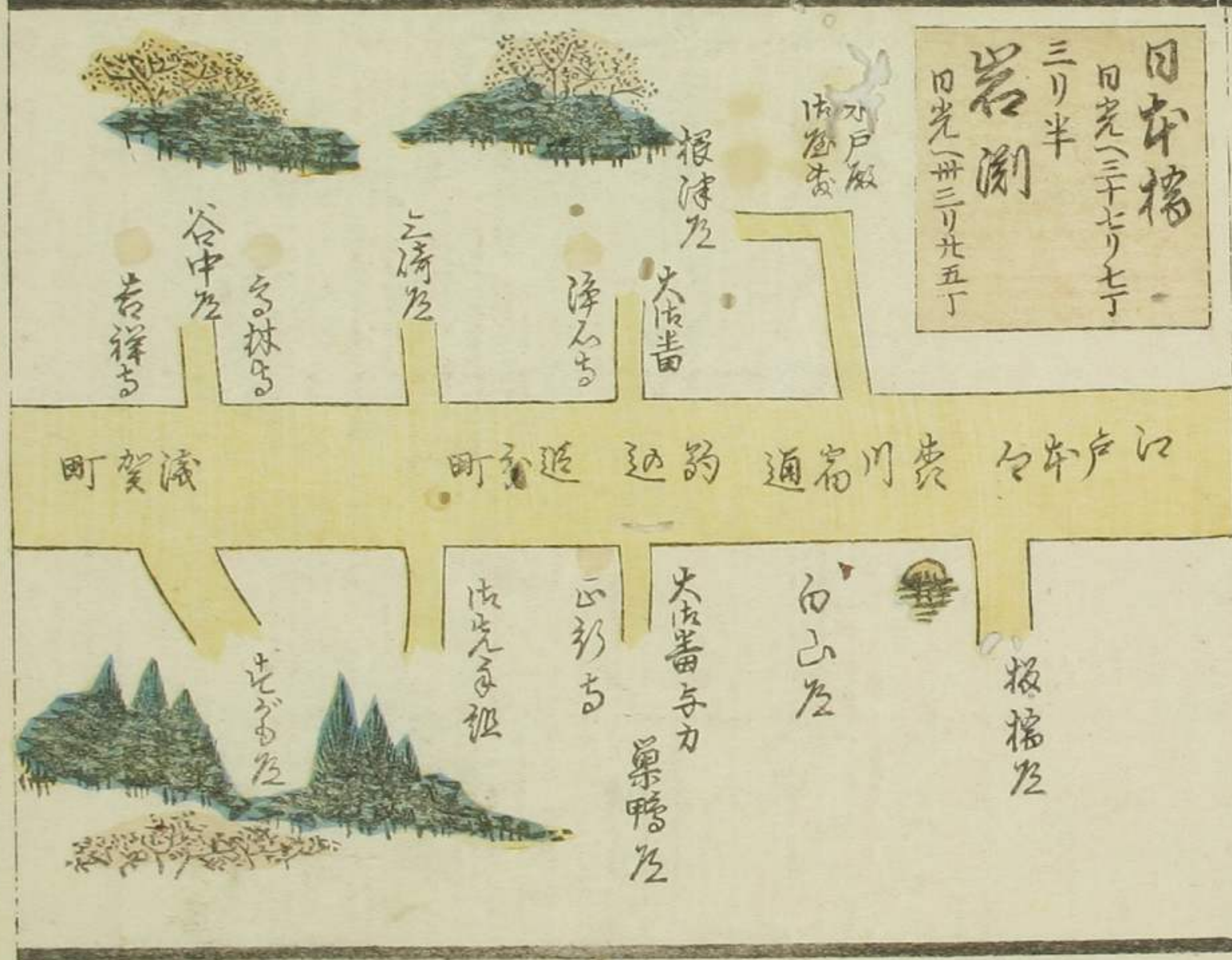
江戸日本橋子恒通日光乃
幸子者一
乃く





江戸日本橋河川通日光

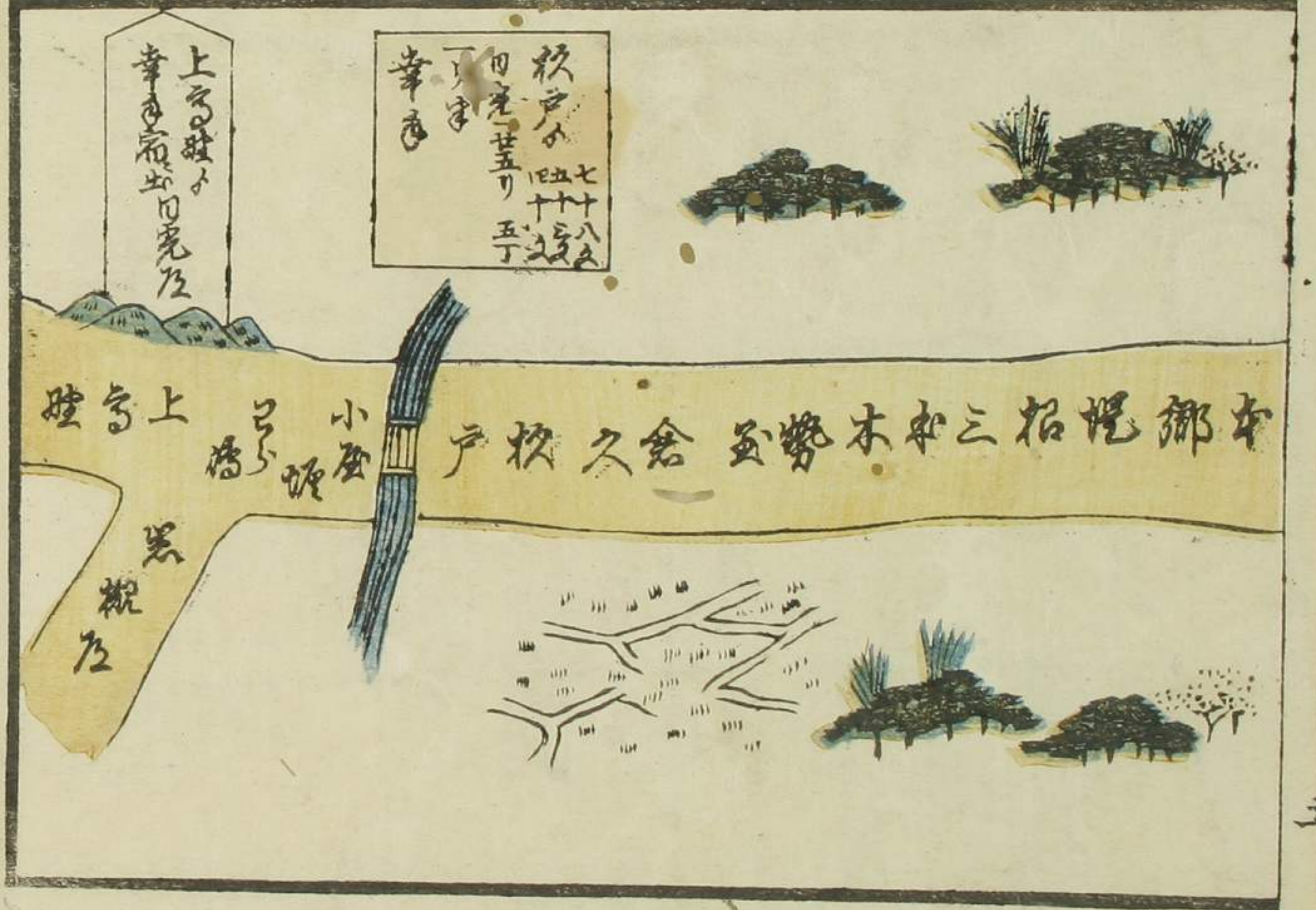
日本橋
日光(三十七里)
三ノ半
岩淵
日光(冊三ノ北五丁)

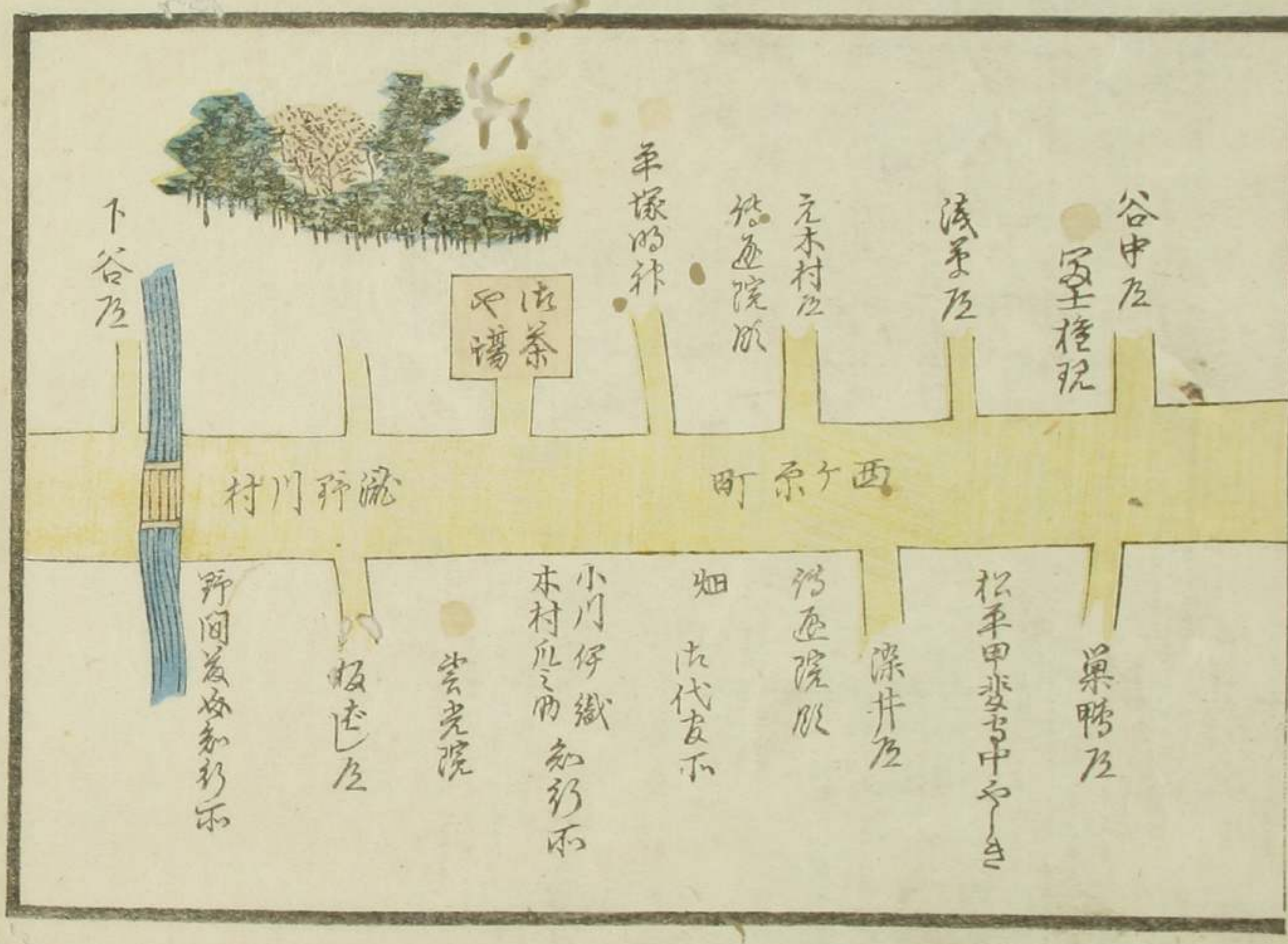
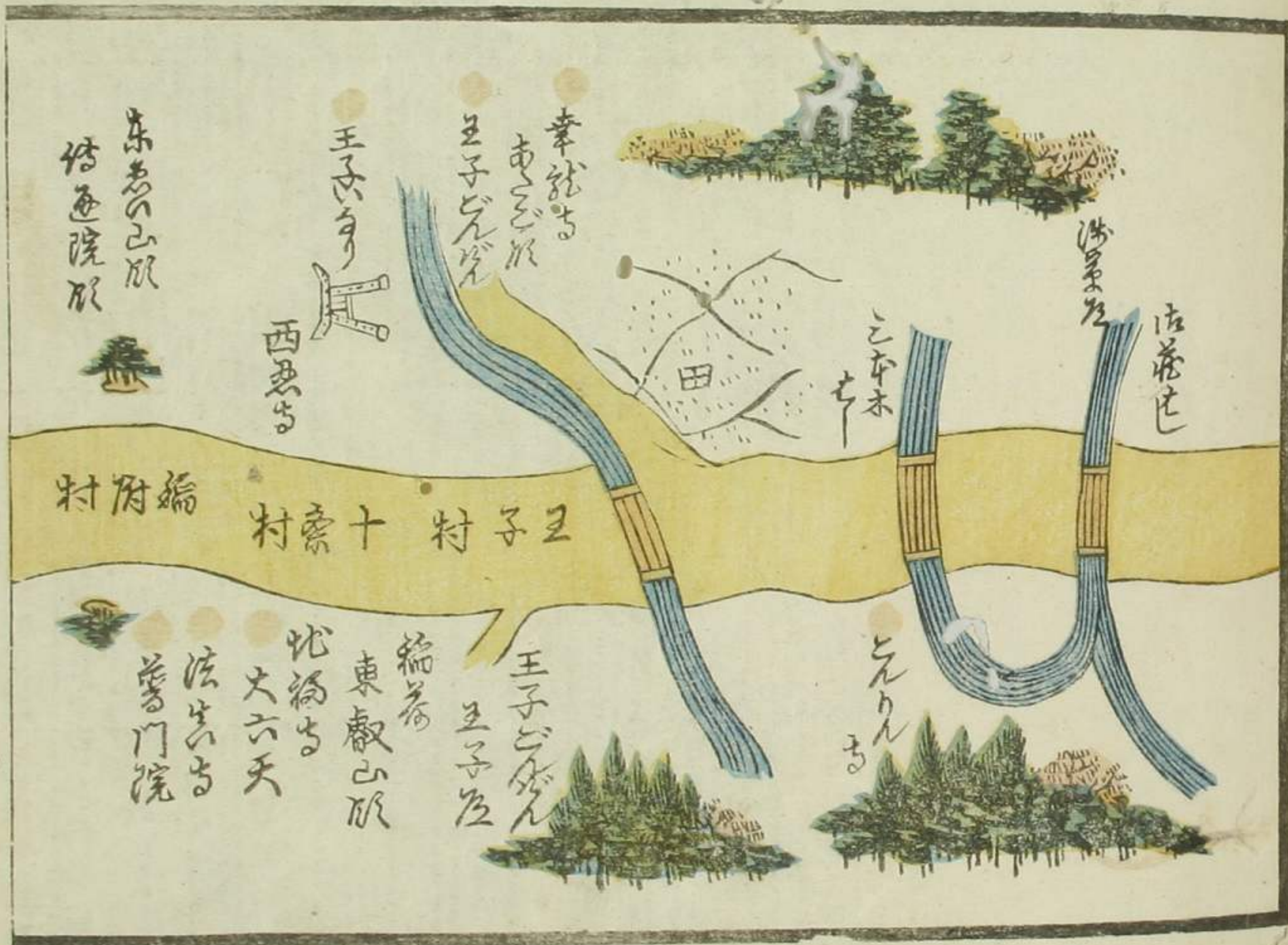


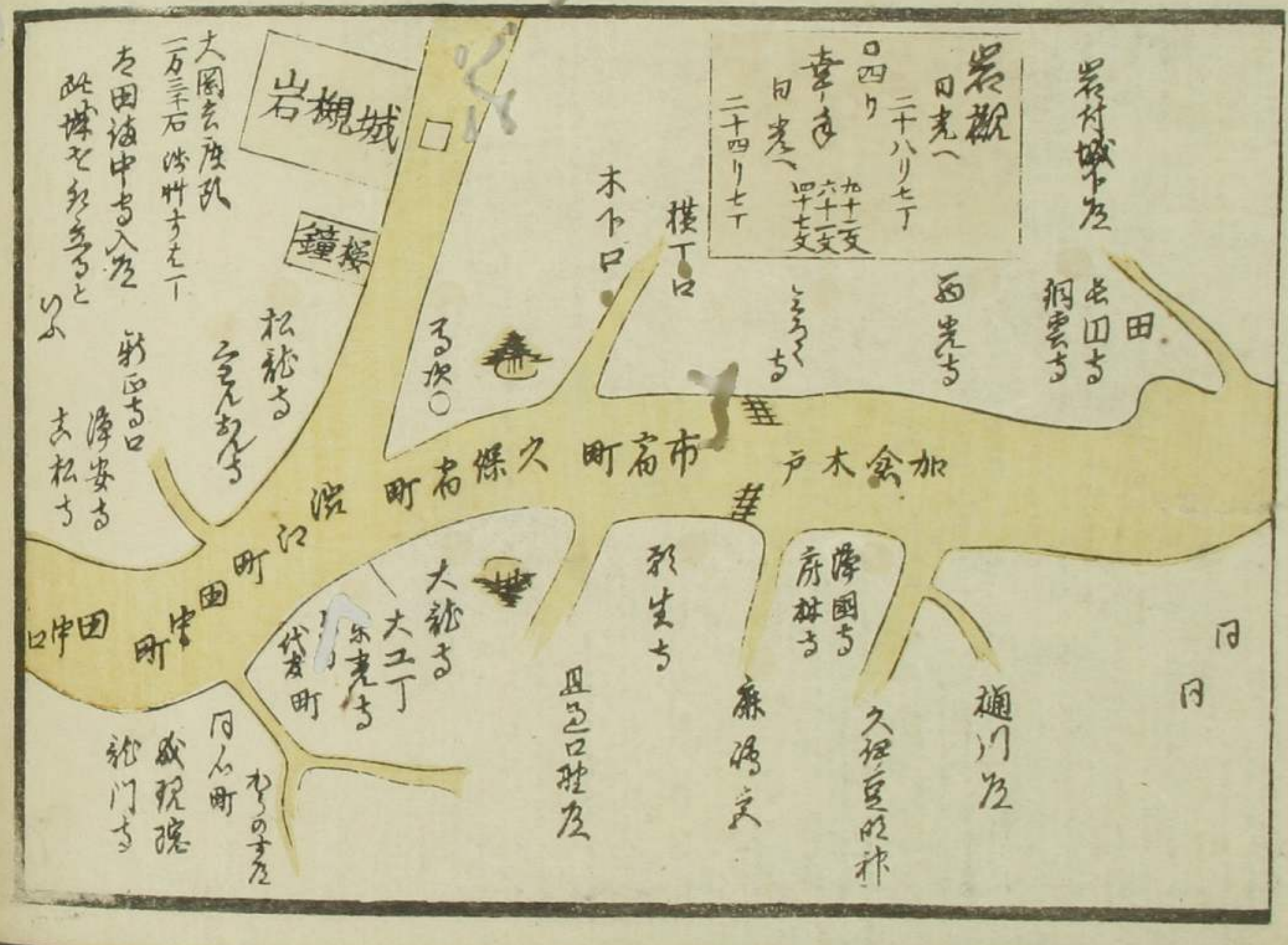
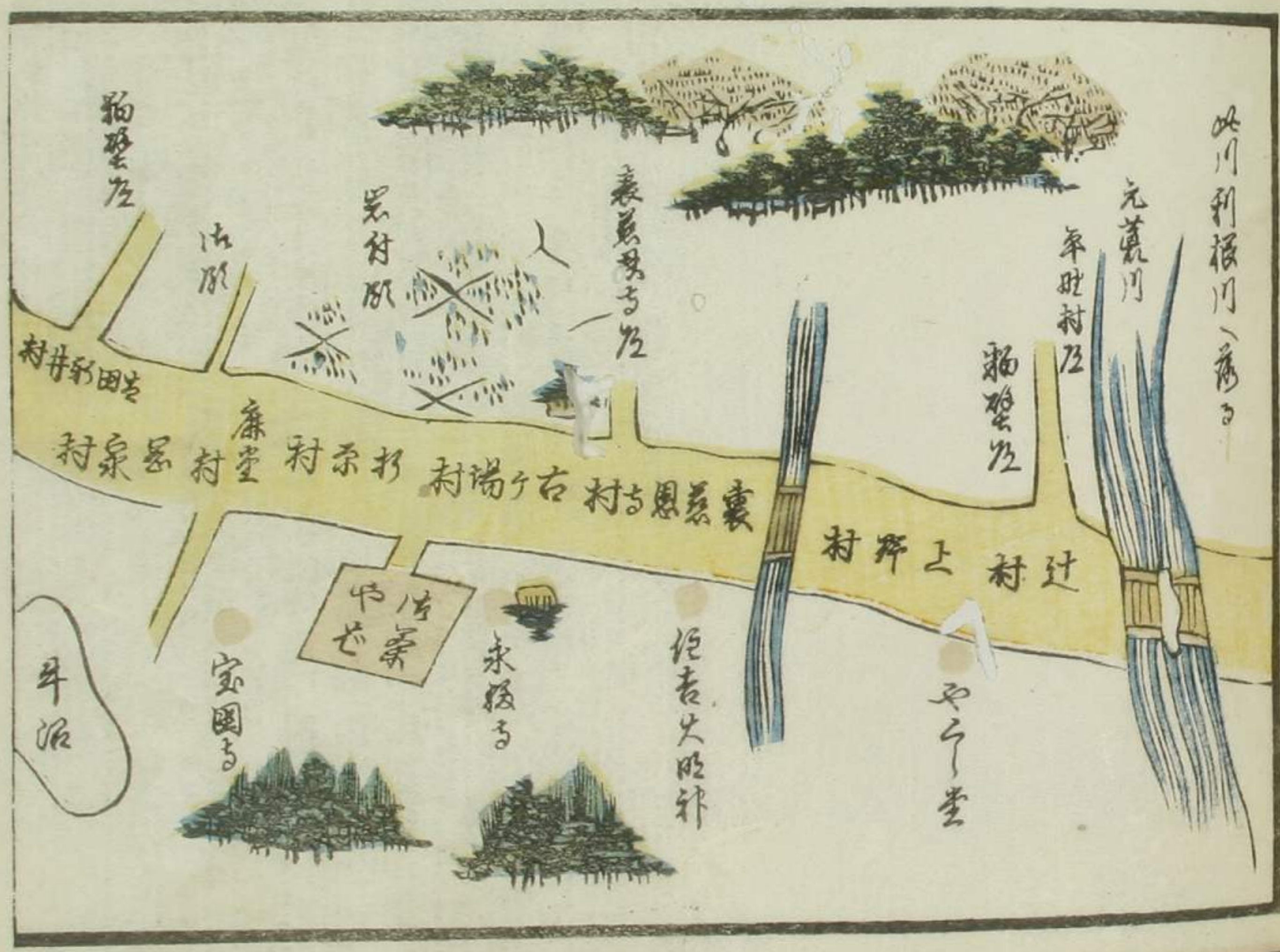
秋戸(七十八里)
日光(五丁)
幸也

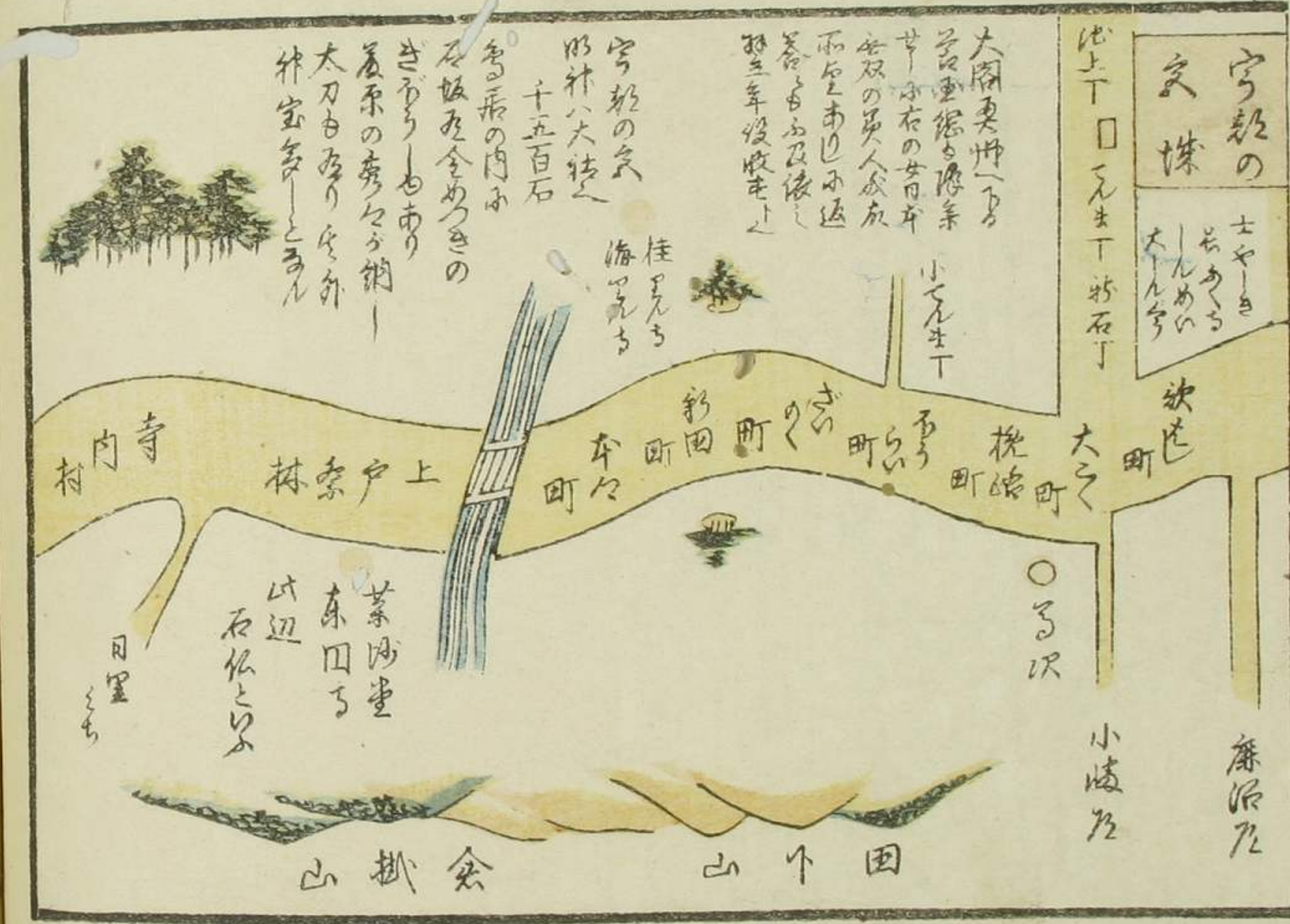
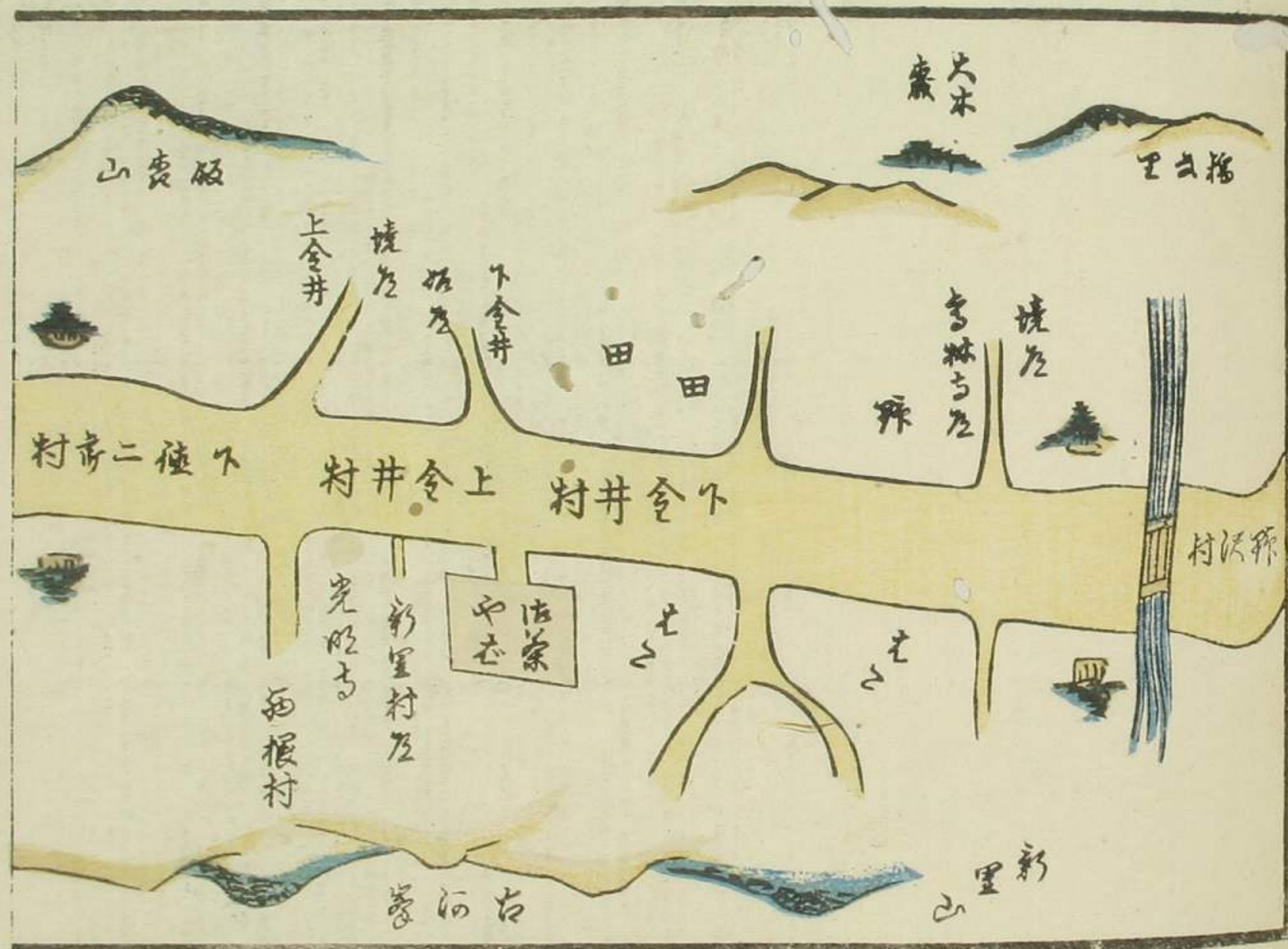
上野(三十七里)
日光(五丁)
幸也

本郷 三木 勢 倉 久 秋 戸 小 橋 上 野









宇野の
文珠

士やい
長あ
大い
大い

此上丁 □ 下生丁 砂石丁

大町更替一
子重徳も
廿一右の
安奴の
雨を
三五年

宇野の
新田大徳
十五百石

寺内村の内
石坂を
きり
大刀
村宝

桂
海

小生丁

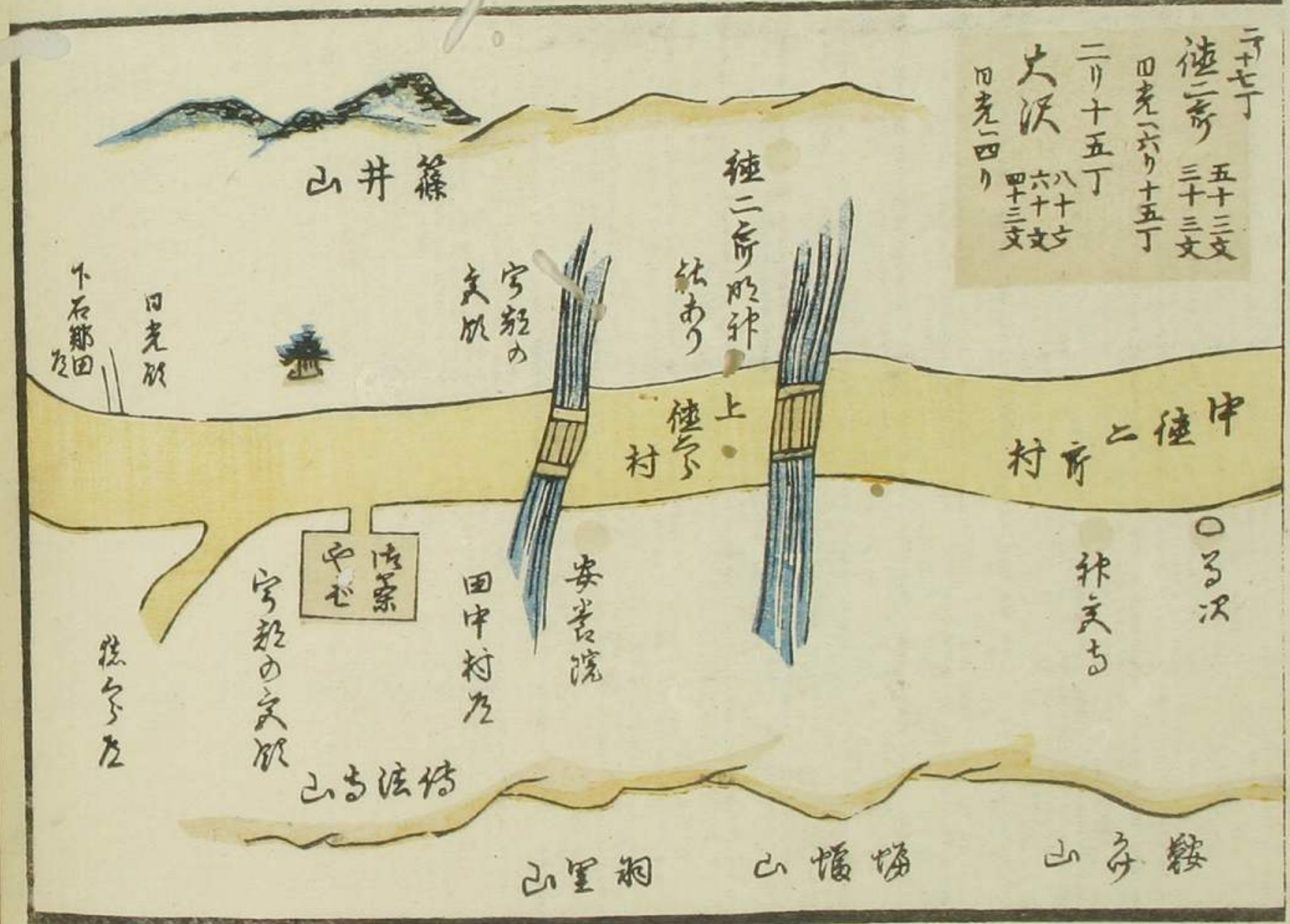
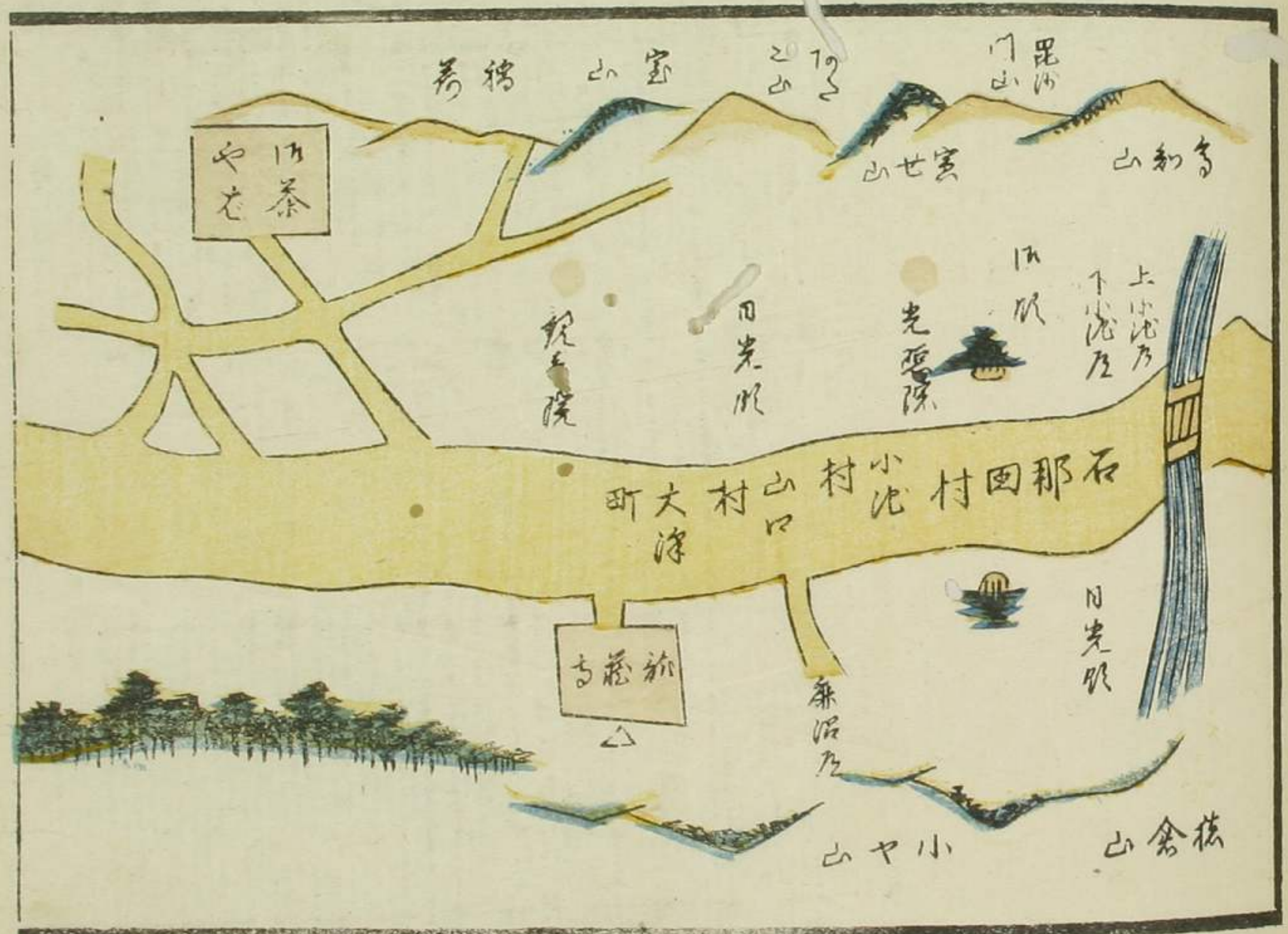
大町
小崎町
新田町
寺内村

〇了次

小崎

藤原





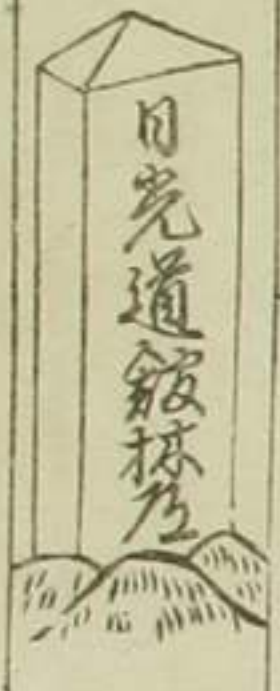
道福坊	永親坊	松光坊	鏡泉坊	殊秀坊	光榮坊	脱翁坊
秀密坊	通宗坊	常親坊	祇象坊	祇象坊	淨久坊	妙力坊
妙珠坊	妙日坊	仲吉坊	仲吉坊	通務坊	光翁坊	通以坊
系泉坊	唯玄坊	正能坊	正能坊	空福坊	源妙坊	教親坊
道福坊	林南坊	金藏坊	源教坊	道務坊	道宣坊	文月坊

中禪寺走大黒御影縮圖

此其傍ハ福徳壽命をさすけ恵りさの
 んんじよけ毎ハまをけりふと一全船あり
 空難ゆ一と務利を為士農工者とあり
 祈願常々あり
 由らが如く又老人
 西の河新也さるさる
 うけね念念とくくさる
 物々しくさるさるあり
 徳人忠懐の神あり



日光道 子後通	日本橋 二丁	子後 八丁	茶加 元丁	鐵谷 二丁	新登 一丁	秋戸 半丁	尾小 半丁
中仙道崎の築宿あり	日本橋 二丁	板橋 二丁	目黒 二丁	浦和 二丁	大宮 二丁	上尾 一丁	桶川 一丁
大崎町 南橋町	目黒 二丁	目黒 二丁	目黒 二丁	目黒 二丁	目黒 二丁	目黒 二丁	目黒 二丁
百七十五文	七十三文	八十二文	七十二文	七十二文	七十二文	七十二文	七十二文



恩 十萬石
松平下孫書
馬場先

羽生在り

秋元五十橋
八萬石
と多岐内

古河在り

小
林
及
石
及
石
及

在生在り

新田
二り半
日光へ
廿四り廿丁

新
半り
日光へ
廿二り廿丁

川俣
一り
日光へ
廿一り三十丁

館林
二り
日光へ
廿り十三丁

佐
二り七十七
日光へ
十八り十三丁

夏田
二り廿丁
日光へ
十五り十九丁

朽木
一り廿丁
日光へ
十三り十九丁

合戦場
一り半
日光へ
十二り廿三丁

全勝
一り半
日光へ
十一り二丁

楡木
八丁
日光へ
九り廿丁

赤依系
一り九丁
日光へ
九り十四丁

酒川田
大谷在り

藤沼
二り八丁
日光へ
八り八丁

大沼在り

文狭
二り
日光へ
六り

大沼在り

板橋
二り
日光へ
四り

大沼在り

今市
二り
日光へ
二り

大沼在り

鉢石
日光へ
二り

大沼在り

日光
日光へ
二り

諸方道附日完日
 所文一七丁 滝尾一十八丁 清流一り
 所靈一十二丁 窪光一り 蓑尾一り 五丁
 新文一十丁 宮波一十三丁 中宿三丁
 常陸一り半 林橋東の方 所茶を山 湯く 所之
 湯敷山一三丁 川俣湯山 八丁 湯山一六丁
 足尾一六丁 足尾通り 上丹妙 湯山 所之 保
 橋名山一り 日光より 妙湯山一二十七丁

中仙道上明倉子所より老倒幣仗道

倉ヶ粒 一りま	玉村 一りま	み料 一り	法園折	芝	さうい	木さね 二り十丁	木田 二り八丁	八木 三十丁	栗田 二り	天取 一り	大伏
菅呂	畠田 一り三十丁	朽三木 三り		全勝 一りま	榎木	奈佐系	麻沼	文狭	板橋	今布	新石

畠新頃孫之記

五巻ハ畠新頃之箱亦有

一の例

堀田加賀守紀朝臣 正盛	西沢對馬守信朝臣 重次	高田信濃守長宗 正佐	三枝右伏守源 守重	奥山長右衛門長宗 安重
----------------	----------------	---------------	--------------	----------------

二の例

以上安重元年六月廿二日 松平右衛門長宗 正綱
 寛永二年正月十七日 成瀬隼人長宗 正成

源應元年四月

源誠盛

正信

治長十六年七月十日

木曾水正源

清秀

天睦彦右衛門左衛門 忠重

寛永七年四月十七日

中務卿丹治

信吉

寛永六年九月十七日

御前左衛門少輔 正成

寛永十六年四月十日

板倉重昌 信永 正邦

元和庚申 年四月十日

後込守藤原

与徳

安永元年十月十日

後込守藤原

重徳

永應二年五月十日

後込守藤原 宣吉

三の例

寛永七年十月六日

後込後

伊賀守藤原

与虎

以上位 兼伊賀守藤原後込守藤原英岳士 周防守宣吉

寛永七年七月十日

出井大尉藤原

利勝

寛永四年十月十日

出井後込守藤原

忠利

寛永二年七月十日

兼後込守藤原後込守藤原

寛永二年十二月十日

永井右近衛左大臣 重勝

寛文八年九月十日

後込下佐州太守大江姓永井氏

堀山居士姓名巨永井高政と云右之右塔釈迦堂あり

○後込後込守藤原後込守藤原の御前左衛門正成と云

○後込後込守藤原あり 藤原重吉と云

○後込後込守藤原あり 藤原重吉と云

○寛永十一年 五月十日 後込後込守藤原後込守藤原

定長照光院月日領山入大居士。墳墓あり

河堂山道と云ふ所の河名登の西方より北に
往んで西条郡の河を渉り北に往くとく畧也

○河門至河繁津の道之記

○四月十六日朝繁津河署より北に中山及び
通新と云ふ雄水嶽を仰ぐ上野國新田郡
下野國梁田郡と云く同至佐野初本を經て
日光山の北をぬぎて毎年淨土院と名付まは

河門至河方の日十三日東叡山に遊するも
御道之記文通り同十六日夕迄あり

毎年四月十六日朝五つ時より始り奉繁津の式
終りて浄土院へ還入ぬ即日西叡山を今市より
河の東通りお垣河へ遶りて東海に遊す

日光山名所古跡備考

辨石町是より日光山の下る一歩に辨橋といふ
りきも懸架ありといはしむまの橋といひ五月
橋下りぬ必きお坂橋といふありけ橋と後り左
仍に律院あり是より西の麓へは行坂といふ
石碑あり是に於て右の東に於て神あり
杖の寺道の碑あり此例の坂へ東に松岩坊舎あり
あり此坂の上にお寺あり又此坂の左の下にお寺
所跡あり此ありは西より日光山へ向く是と長坂といふ
右の上方に此坂に四月十七日山を登りあり
長坂と上り向ふの南に浄土院といふあり
盛長の石塔あり此の南に西に松岩といふあり
中山と云ふ西に松岩町あり中山の南に松岩といふあり
の右の南に松岩町あり向ふ右の南に松岩といふあり
是田院といふあり西に松岩といふあり

右方は右邊の右の方。右は殿は雨ふ時の滝あり仁王門
三の棟造りあらん仁王臺の方へ櫛子に是を内文
中と稱す右の方内室は之の並ぶ柱礎といふはうに
内廊ありは是も徳大寺方より進致の内燈籠あり
あり左の方。之種様。内廊。内室。内室。内室。
瑞徳信濃寺左邊右邊あり是も厚銅の石あり。在り
の方燈籠は裏は内門ありそれより内正面石燈を
のり左に小ありとあり。まうまう圍ふ鉄上は
十六日の燭臺とせん玉の鉄上のつり子同寄燈籠
ありんが鉄上のまうまうありはわくは左平地臺
本寺某師が末は石燈とあり陽明内門表々
陸身うらみ風天霞天より内額、後湯成院の表々
けはの俗小田ぐし内門と云武家方の刀を多て入る
左の右と席左の方内響堂二季の内ありとく
後河之右の之の内林一本雨鐵臺さくはうらり
左右に玉が内林殿は雨階下あり法人が一なる

ふり向く仁王は内出右の方(仍新文)の
砂石の上相見らるあり少く切て新文者若は額
ハ敷一層正一位日光大権現は社主 文様は筆之更
りり之は筆是ハ日光三社の内本北仏より南に北
大ざん之あぶびを新文大権現日光三社の外二南の方
に別不安菩提院の内よりまの文殊あり新文あり
西(仍て流の尾あり)板は南の方(仍)切て左は
新板の骨を桐同若びは法花堂是を二可堂といふ
その名を過り板は上小慈眼大座堂ありは内代々
法蓮堂の内廊ありありと別別安量院板二ツ
堂の内小法堂あり。向ふ仁王内門あり安安四年四月
廿日の内是殿之末備はうまの法蓮堂内は法蓮院
水の板は上小表門あり別流の尾は之を板中に
眼法某師果あり徳人體是を法蓮堂是より
のりつめ某師あり徳人體是を法蓮の行者堂
あり右の方法蓮堂は板の上小法蓮堂ありは内

